

私の履歴書

五百旗頭真

⑫

導の文書SWNCC70/5を承認した。同時にスターリンの北海道北半分をソ連軍占領下に置きたいとの「つつましい要求」を拒否した。米軍部は北海道と東北地方全域をソ連軍占領下に置くことを考案したが、トルーマン大統領は北海道の半分すら認めなかったのである。

論記事の掲載を求めた。が、1カ月を経ても返事さえなかった。暗澹たる想いに陥った。私は眠れぬ夜を過ごし、学者生命を絶たれる恐怖にうなされた。

愁眉を開いたのは、国際政治学会の春の大会に報告を申した。

学会には正義も良心もある。秋の学会でお目にかかる。細谷教授が「その節は失礼しました。私が間違っていました」と明言された。驚き、敬意を覚えた。私は学会報告を敷衍して、国際法学会の「国際法外交雑誌」に論文を連載した。入江教授はそれを高く評価され、その後何度かのハーバード大学での研究に際して心のこもったホストをして下さった。「幻」とされた先生も、不自由になった身をおしてハーバード大学の私の研究室を訪ね、占領研究の出版を励まされた。

米国立公文書館で私が日本分割占領案を発見したニュー

スが報じられた後、専門家に
よる批判の波が走った。

当時、日米関係史
研究で学界をリード
していたのは、国際
政治学会理事長にな
る細谷千博一橋大教
授や、太平洋を行き
来しつつシャープに
議論をする入江昭シ
カグ大学教授であつた。彼
らが私の報道を批判した。米
国政府の政策決定過程の中に
位置づけもせず、一点の衝撃
の文書に騒いでいると。

学者生命喪失の危機

学会報告の質疑で一転

日本分割占領案

幾分センセーショナルに書
かれた新聞記事を読んだ時、
実は私もそう感じ、居心地悪
さを感じていた。いずれしっ
かりした論文を書く他はない

た占領研究の大御所であつた。自分もすでに米国公文書館でその文書を見たが、「分割案」などではなかった。報道をにぎわしている若者は幻を見たのではないか

立場を失い、23日に修正版を出した。それは単なる各国の兵力抛出計画であつた。先学の教授は何故かそののみを見て、元の分割案を見なかった

よつた。浜辺の小石のように文書は膨大であり、誰も見落すことはある。しかし、見落とした者が、見た者を否定するのはいかなものか。

私は総合雑誌の編集部に手紙を書き、事情を説明して反

論文を読んで、間違いの理由がすぐに分かった。分割案の文書が生まれた2日後の8月18日に、トルーマン大統領は、米国の主導権を重視し、分割占領を否定する國務省主

紙を書き、事情を説明して反

私は総合雑誌の編集部に手

紙を書き、事情を説明して反

紙を書き、事情を説明して反

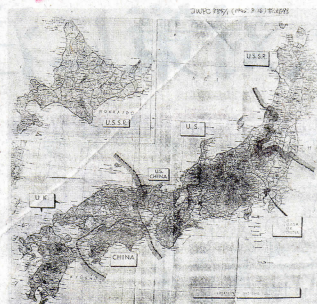
紙を書き、事情を説明して反

紙を書き、事情を説明して反

紙を書き、事情を説明して反

紙を書き、事情を説明して反

紙を書き、事情を説明して反



米国立公文書館で見つけた日本分割占領案の波紋

「幻」とされた先生も、不自由になった身をおしてハーバード大学の私の研究室を訪ね、占領研究の出版を励まされた。